



第55回TRKF大会 (2018年5月2日～4日・福井県民ホール)



献身の証

元FCMF宣教師 ボルヨソン・トーヴェ

キリスト教国ノルウェーに生まれましたが、私の家族には祖母以外に新生したクリスチャンは一人もいませんでした。私は子供の頃、兄と一緒にCSに通っていました。そこで信仰の種が植えられたのだと思います。イエス様を信じる事ができたのは、背後で祖母が祈ってくれていたことも大きかったと思います。

十五歳のとき、友達に教会の集いに誘われました。元麻薬常習者のチームがゲストとして来られました。彼らの救いの証しを聞いて感動しましたが、自分には関係ないと思いましたが、自分には関係ないと思えない普通の女の子だったからです。それでも毎晩、集会に行つて彼らの証しを聞くうちに、少しずつ思いが変わり始め、ある晩、自分の部屋で一人で初めて祈り、その晩イエス・キリストを救い主として受け入れました。

次の日、教会で中学二年生の女の子が私のために救いの祈りを導いてくれて、二人とも泣いて神様に感謝しました。その時から、イエス様を伝えたい、この世界一素晴らしい知

らせをみんなに知らせなければ！という思いを持ちました。

母教会は無牧の教会でしたが、他の小さな教会を訪問してよく助け、三、四人の宣教師もサポートしていました。宣教師もよく訪問され、宣教師は当たり前のことでした。それが、私が自然に宣教の重荷をもつようになった理由かもしれません。看護学校を卒業後、故郷にて仕事をしながら教会に仕えるようになる中、いつか医療宣教師として遣わされたいと思うようになりましたが、神様の御心は違いました。神学校に行つてから、色々な問題があつて、恐れにも襲われました。仕事の忙しさと、友人の死によつて神様と距離を取ってしまったこともありました。何度も宣教に行くのはもうやめようと思いましたが、神の憐みによつて一九八八年来日できました。その時は、三十年間日本で奉仕することになるとは夢にも思わなかったです。長い間お世話になり、ありがとうございます。二〇一八年七月ノルウェーに帰国)

アルゼンチン宣教 30 周年

在原 繁

「アルゼンチン宣教」はこの1月24日で丸30年になりました。御霊の導きを受けることで開かれた奥地宣教地（パラグアイとの国境地帯）における信仰の闘いは、「空中戦」「地上戦」のいずれも熾烈を極める事を多く体験してきました。

「建国以来最悪」と言われていたこの国は、「経済恐慌」「政情不安」という社会的混乱の炎が一気に噴き出し、国際空港は国を競って脱出する人々で溢れ、それはまるで「沈没寸前の船」から脱出するネズミの大軍を見るようだったのです。

宣教開戦一年目から始まった「霊的な戦い」への参戦は、主が求められる重要な働きでした。「十字架」「聖霊の力」「熱い信仰と祈り」「宣教熱」、そして「御霊による愛の一致」こそ、霊的戦いに勝利し、教会が前進できる要因であることを、今までの宣教体験からお伝えできます。

私たちが宣教地に着任したその時、聖霊による「リバ

イバルの炎」は、強風に煽られた野火のように全国を席卷し始めていました。そんな中、宣教の原動力となった「御言葉」です。「そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。まことに、あなたは喜びをもって出て行き、安らかに導かれて行く。」（イザヤ書 55 章 11～12 節）

「明確なビジョンと方策」、「計画と実践」、「経営力」、「組織化」、「弟子訓練」などは、宣教を進め教会を立て上げるための大切な要素です。しかし、これら人間の知恵による働きが「主の御声」に優先する時、働きは一時的に成功したかに見えても、手で砂をつかむような結果を見ることになってしまう、これは自戒をもって言えます。御霊により信仰によって「主の御声」を聴くことで、「ビジョン」を達成することができる、と信じます。



アルゼンチン グアッタンプー教会の祈り会

被災地報告

日本バプテスト連盟南九州連合

熊本南教会 濱田隆先生 84 才 (写真中央)



2016年4月熊本地震が発生し、TPKFの三役はその年の7月に熊本ハーベストチャーチの中村先生の教会を始め、被災地の7つの教会を訪問し、献金をさせていただきました。訪問させていただいた教会の中で濱田隆先生は一番高齢でした。会堂の屋根にはブルーシート、会堂の内部は壁も天井もカビとシミだらけ。しかも、これから新会堂を建てると言われ、「この先生はこのお歳で将来何を考えておられるのだろうか」、とっていました。

今年、7月7日、熊本南教会に電話をしてみましたところ、すでに旧会堂は今年6月に解体し、新会堂建築の契約を交わし、6月10日に起工式を執り行ったとの

ことでした。クリスマスに献堂式を予定しており、建築費用もほぼ満たされ、残り70万円が必要とのことでした。後継者については日本バプテスト連盟と協力をしている韓国バプテストの若い宣教師が昨年からは毎月説教の応援に来ておられ、クリスマスの献堂式に牧師の引継ぎをし、ご自分は引退されます。25年前の脳梗塞で右半身がしびれ、歩くのにいまだ不自由だそうですが、引き継げば安心して眠れるとのこと。奥様は、起工式が終わったので、それからよく眠れるようになったとのことでした。

このお歳で新会堂建築をしようとしたきっかけは何ですか、とお尋ねすると、今回の地震があったので、「よし、新会堂を建てよう」と新たな伝道意欲に燃やされたからです、とのお返事。27才で献身、30才から54年間伝道生涯を走って来られ、今の教会で50年伝道、牧会してこられ、信徒数10名前後。いまの自分を支えている聖書のことばは、マタイ6:33「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」、お金を求めるのではなく、神の国を第一にしてきました、だから今があります、と力強く述べておられました。(中見 透)

TPKF 支援金の口座

▶郵便振替口座 00790-7-46083 口座名義 TPKF
▶銀行口座 三菱東京UFJ銀行 出町支店 店番号 506
口座番号 0668994 口座名義 TPKF 置田信也

第55回 T P K F 大会メッセージ要約（講師：寺田文雄師）



聖会Ⅰ：「主の励ましと宣教」（使徒 18:9-10）

開拓伝道時には、この町には神様の民がたくさんいる（使徒 18:9-10）と励まされて、中高生伝道を行った。田舎であるゆえに多くは他府県に出て行ったが、女性3名が郷土愛と家族の救いという強い願いを持って戻ってきた。教会にとって決定的な信仰の一步だった。一途で純粋な信仰を神様は祝福してくださり、教会は立ち上がっていった。

「腰を据えて」（使徒 18:11）伝道に取り組むために、会堂建設のチャレンジを受け取り、4年後には役場隣の一等地に会堂を建てることを神様は許してくださった。力を結集して短期間に目に見える成果を神様から受け取ることが開拓教会に勢いを与えることを学んだ。

将来を見据えた戦略転換が必要（使徒 18:6-8）。実を結ばない働きを閉じて、より実を結ぶ可能性を開いていく。教会において、愛の関係、横の関係が弱く、本当のクリスチャンとしての人生の分かち合いができていないことに気づき、セル教会へ。牧師中心、会堂中心、礼拝中心から、初代教会のように支え合い、励まし合い、共に学ぶ、より共同体的な要素を持つ教会に転換。信徒みなが伝道する教会に変わり、毎年10名以上の受洗者が与えられている。現在人口1万5千人の田舎の町で、セルに変わってこれまで150名以上の受洗者が与えられた。神様は私たちを成長させ続けてくださる。

セミナー：「日本における宣教力アップ」「教会の雰囲気を変革する」

日本伝道の突破口は人間関係伝道。教会訪問の79%は友人・親戚・家族の人間関係を通して。救われた私たちは礼拝者であると同時に宣べ伝える者（1ペテロ 2:9）。伝道とはイエス・キリストを紹介し、相手の側に立って背後で祈って仕えていくこと。

神様の愛の御心を受け取り、地域と人々のためにとりなすを続け、次世代と共に地域に根ざす教会づくりを進めよう。聖霊に満たされ、優先順位を整理し、実際的な方策をとり、宣教的雰囲気と文化を育てよう（1コリント 9:19-23）。

具体的な手順：伝えたい相手をリストアップ（1週間に30分は関わることができ、中立か心を開いている人）／6か月間の計画／3分間の証しの準備（イエス様に出会う

前、どのように出会ったか、出会ってどのように変わったか：各1分間）。時を見て、十字架の架け橋の図を用いて福音を知らせる。種を蒔き続けよう。

聖会Ⅱ：「希望の神と共に」（ローマ15:7-13）

聖書が語る希望のことば（1コリント 13:13、ローマ 5章、ローマ 15:13）を受け取り、それを信じ、告白し、従っていこう。神様が、その希望に実態が伴うみわざを成してくださる。

希望の神様が私たちの人生に与えて下さる力は信仰と聖霊。信仰は、本当の喜びと平和を生み出す。神様を喜ばせ、報いをもたらず（ヘブル 11:6）。神様の栄光を見させる。私たちの人生、信仰生活、また教会全体を引き上げる力がある。信仰によって永遠のいのちが与えられる。

聖霊が生み出すものは、キリストを証する力と勇気。聖霊が下さる途方もない可能性に目が開かれるならば私たちの人生や信仰生活は変わる。希望の神様を日本に伝えて行くために、聖霊に徹底的に信頼して、自分の人生を明け渡し、従っていこう。

聖会Ⅲ：「互いの賜物を燃やし前進しよう」（Ⅱテモテ1:5-7）

日本において宣教が進むためには、信仰継承が必要。親は十分に準備して祈って、子どもを最高の求道者のように扱って育てていこう。そして聖霊によるスーパーナチュラルな信仰、不可能を可能にする神様を信じる信仰を継承していこう。

私たちには神様から与えられている賜物がある。それを燃やし続けていこう。ローマ 12章には、預言、奉仕、教え、勧め、分け与え、指導、慈善とある。ほとんどのものをクリスチャンは持っているが、特定の賜物でチャレンジを受けるなら、それをを用いて行く時に、さらに人生が開かれていき、心に喜びを受け取るようになる。

1コリント 12章には、知恵のことば、知識のことば、信仰、奇蹟を行なう力、預言、いやしの賜物、霊を見分ける力、異言、異言を解き明かす力という超自然的な御霊の賜物が記されている。これらは御霊の現れなので、聖霊を受けている全員に可能性がある。教会が前進していくために、これらの働きが必要となる場面がある。絶えず御霊の賜物を求め、用いていこう。（要約：札幌義宣）

「祝福され満たされた大会」——第55回TPKF大会報告

ハレルヤ！ 主の御名を賛美します。

今年のTPKF大会は講師に南紀リバーサイドチャーチ主任牧師であります寺田文雄先生をお招きし、5月2日～4日に福井県民ホールで持たれました。まず、主が三日間の大会を祝福し、参加者一同を満たして下さった事を感謝したいと思います。大会テーマは「主の励ましと宣教」（使徒18:9,10）でした。大会聖句は、講師が35年前、奥様の郷里であります和歌山県古座町（現串本町）で開拓伝道を始められた時に主から与えられた御言葉でもあります。

最近6年間のTPKF大会の方向性として、「三世代の祝福として次世代を育てる」ことに重点を置いた取り組みがなされて参りました。本大会では、講師のこれまでの働きと体験とに基づいた証しとメッセージを通して、次世代を育てる道—少子高齢化が進み教会に閉塞感が漂いやすい中で、教会がそれらを打破し前進して行く道—がより明確に示されたように思います。特に私の心に深く残った言葉は「田舎の伝道は難しくない、大きな可能性がある、神に期待し求めるなら。」でした。聞く者一同が主からチャレンジを受けたのではないのでしょうか。また、先生が確信しておられる、「親子2代、3代で腰を据えて取り組むなら伝道は進む」、「教会と地域との良い人間関係ができてくるなら宣教は進む」という言葉も印象に残りました。次世代と共に地域に根ざす伝道の大切さを改めて教えられた次第です。

音楽ゲストのクリスチャンバンドでありますEYSのコンサートは爽やかで好感が持て心から楽しませていただきました。ユース集会では、主は菅原道夫先生のメッセージを通し、受洗など様々な決心者を起こして下さり、幸いな時として下さいました。キッズ集会のためにはKBI生が中心となってお奉仕くださいました。本大会の為に祈り献金を捧げて下さった諸教会に厚く御礼申し上げます。大会運営必要の全てが満たされました。主に御業がありますように。

（大会実行委員長 元福井自由キリスト教会牧師 川瀬清文）

キッズ集会報告

今回は、KBI（関西聖書学院）の学生で、キッズ集会を導かせていただき、2日間を通して「イエス様へGO！宣教へGO!」というタイトルで子どもたちと集会をしました。2日目、3日目と2歳から13歳の子供たちが集まりました。

今回は、サムエルや、中風の人をいやしたイエス様、そしてマルコといった聖書の登場人物から“イエス様のもとへ出て行き”、そして、マルコのように“世界へ出て行く”ことをメッセージだけでなく、スキットを通してみていきました。スキットでは子どもたちにも参加してもらい、聖書のストーリーと一緒に味わってもらいました。

また、3日目には、本大会で特別賛美をさせて頂きました。毎回の集会の中で、「世界へ」という賛美を覚えながら、振り付けも覚え、みんなで賛美をしました。

本当に初めから最後まで、主に祝福された時を子どもたちと過ごしました。主に感謝いたします。（町田純福音教会 廣瀬開）



ユース集会を通して、洗礼を決断



以前から岐阜でのユースキャンプに参加する中で、洗礼のことを何度も考えていましたが、なかなか決断するにはいたりませんでした。今回参加させて頂いたTPKF大会のユース集会で、菅原道夫先生の「十字架の本当の意味」というお話を聞き、「こんなにも自分の事を愛して下さっている方になら、自分のこの先の人生を預けても絶対に後悔しない!!」と思わされ、洗礼を決断しました（7月に受洗予定）。今ではあの時に決断して良かったと思っています。

まだ高校生なので、洗礼を受けた後も出来る事は少ないですが、それでも神様のことを少しでも多くの人に知ってもらえるよう、神様のもとで働いていきたいです。

（岐阜純福音教会 田口奏介）

賛美への思いを新たに——EYSライブ



TPKF大会2日目午後、京都からのクリスチャンバンド、EYSによるライブが行われました。私はEYSの曲を聴くのは初めてだったのですが、彼らのストレートな歌詞に引き込まれ、神様の愛や主に委ねる事の素晴らしさを改めて感じました！私も賛美が大好きなので、賛美を通してたくさんの人に神様を伝えていけるよう、歩いていきたいと強く思われました！（岐阜純福音教会 加藤さやか）

あかし

「心熱くされた」

丸岡福音キリスト教会 庭井 要



まず先生のお証しを聞いて心惹かれた。30代で献身され家庭を持ち、御夫人の郷里の片田舎に神の導きを受けて伝道を開始されたこと。「この町にはわたしの民がたくさんいるから」との聖句を頂き、困難の中を神に従って伝道に励まれ、初めは子供や学生ばかりで町の人には「今にあの教会は潰れる」と言われ苦悩の中で戦われたこと。4年目に会堂建設がなされ、のち会員の信仰の養いと強化に勉められ、更に将来に向かって大きなビジョンと戦略を受けそれに従って進まれたこと。

次に、大切な「信仰の継承問題」について語って下さり、クリスチャンホームやミッションスクールの信仰継承の事と私達の賜物を生かすことや聖霊に満たされ続ける必要性について良い例を交えて熱心に語ってくださった。

終りに、神は私達一人一人に御計画を持って居られるので置かれた場所でしっかり信仰を持って従順に歩むよう信仰の励ましを頂いた。

先生の真実なお証しと主の温かい愛に心あつくされ感謝でした。

「感化されました」

栄シャローム福音教会 小山晶子

福井での単ペンに参加することを通して、生まれて初めて福井県に足を踏み入れました。単ペンはそれぞれ広範囲に教会が散らばっている関係でグループ内でもなかなかお会いする機会が少なく、ましてや関西や中部北陸の兄弟姉妹とはさらにその機会が少ないということもあって、今回もとても貴重な時間でした。様々な地域でイエス様を伝える使命を全うしようと奮闘する先生方を見ながら、そして講師の寺田先生の主に信頼して前進していく姿を見ながら、もう一度この横浜の地においてどのような姿勢で宣教に励んでいくべきなのかということを考えさせられる時間となりました。変化することを恐れないこと、新しいことにチャレンジしていくこと。伝道のためにしなやかに対応しておられる寺田先生のお話に感化され、小山牧師や新實伝道師と共に具体的な現状の改革についても話し合える時間が持てて感謝でした。



「主の御心を求める」

京都キリスト福音教会 西村満里奈

主の御名をたたえます。5月に単立ペンテコステ大会に参加し、寺田先生より実践的な宣教の働きについて語られ、「主の御心を求める重要性」を学びました。

私事ですが、北海道から京都に来て8年目になり、仕事と教会奉仕をしながら2年前よりシニヴィルタ宣教師の教会開拓の働きに関わるようになりました。これも不思議な主の導きです。今大会のメッセージでは主からの励まし、従順、信仰の成長、会堂建設のチャレンジについて話され、私も開拓の働きを一層頑張ろうと意気込みました。

ところが、その3週間後シニヴィルタ宣教師が急遽フィンランドに帰国することになり、教会を閉じることになりました。なぜ道を閉ざすのか神様に失望しました。御言葉では希望は失望に終わることがないと言っています。私は、悪魔の攻撃に失望するのではなく御国の拡大のために祈り、御言葉によって生かされる必要があると思いました。何があっても神様にまっすぐで忠実な僕になりたいです。



教会紹介

大津韓国福音教会 所在地：滋賀県大津市中央 4-10-11

当教会は半世紀以上、本国韓国の熱心な祈りの流れを受け、大津市を始め滋賀県や日本の救霊の為に熱い祈りが積み上げられて来た教会です。今後ともこの祈りの継承は何より重要なことだと考えています。大津市は土地の面積が狭く、人々が京都や大阪へ働きに出掛け経済的に大きな影響を及ぼした歴史があります。今後も KFK の皆様と手を携えつつ、祈りに励み霊的影響を及ぼす働きができることを何よりも願っています。

(村岡清彦)



福井自由キリスト教会 所在地：福井県福井市木田町 2617

戦後、福井市に蒔かれた福音の種は、今も成長しています。聖日礼拝は手話通訳があり、賛美と喜びで満ち、礼拝後の昼食会は交わりの祝福の時です。「カフェ・オリーブ」(本格派煎茶とコーヒーが大評判)、「バイブル・トーク」(初めての方も気軽に参加)、「ハンドベル」(教会や近所の若いお母さんの演奏)、「KCCM-FUKUI」(超教派ゴスペルサークル)と「いろんな人々が集まって、御霊によって一つの共同体となり、神様の愛で結ばれている」教会です。

(山本義武)

教会情報

TPKF ▶

第56回 T P K F 大会

2019年8月13日～15日 神奈川県 レクトーレ葉山

テーマ：「イノベーション(革新)」

講師：細井 眞師

FCMF ▶

4月29日 南部キリスト教会 菅原道夫師 牧師就任

5月31日 南部キリスト教会 鈴木啓子師 引退

7月26日 関西聖書学院教師・スタッフ トーヴェ・ボ

ルヨソン師 引退 ノルウェー帰国

イースト▶

T P K F 大会プレ大会賛美集会 with 中山有太師

8月17日(金) 19時～ 栄シャローム福音教会にて

第56回 T P K F 大会に向け、50回大会ユース講師だった中山有太師を迎え決起大会。

KFK▶

4月22日 宇治キリストペンテコステ教会 松村壽子師 引退

京都ネットチャーチ シニヴィルタ師ご夫妻、奥様の梨絵師の治療と療養のため7月にフィンランドに帰国。教会は活動を休止。

単立ペンテコステ教会諸教会(名簿順)

北広島自由キリスト教会 / 平川キリスト福音教会 / 房総中央キリスト教会 / 大佐和キリスト教会 / 町田純福音教会 / 鶴見純福音教会
 横浜フィラデルフィヤ教会 / 磯子フィラデルフィヤ教会 / 金沢フィラデルフィヤ教会 / 横須賀クリスチャンセンター
 保土ヶ谷純福音教会 神の愛チャペル / 大和あがないの丘キリスト教会 / 戸塚カルバリ純福音教会 / 栄シャローム福音教会 / 伊勢原聖書キリスト教会
 秦野クリスチャンセンター / 北アルプスグローバルチャーチ白馬キリスト福音センター / 南アルプスグローバルチャーチ小笠原純福音教会
 甲府カルバリ純福音教会 / 富士吉田純福音キリスト教会 / ハーベスト・チャーチ山梨 / 裾野純福音キリスト教会 / 御殿場純福音キリスト教会
 富士純福音キリスト教会 グレースチャーチ / 小松ベタニヤ福音教会 / 小松南部キリスト教会 / ホープハウス / 福井自由キリスト教会
 文教ゴスペルセンター / 松岡福音教会 / 丸岡福音キリスト教会 / 勝山自由キリスト教会 / The Lighthouse 749 (三国町) / 武生自由キリスト教会
 グローリーチャーチ敦賀自由キリスト教会 / 金津福音キリスト教会 / 小浜キリスト福音教会 / 小浜キリスト福音教会 三方伝道所 / 高富グレースチャペル
 岐阜純福音教会 / 岐阜純福音白鳥教会 / 岐阜純福音大森チャーチ / 大垣インターナショナル・フルゴスベルチャーチ / 岐阜ライフチャーチ
 美濃グレースチャーチ / 本地ガ原自由キリスト教会 / 瀬戸サレム教会 / 滋賀キリスト福音教会 / 守山キリスト福音教会 / 大津韓国福音教会
 大津キリスト福音教会 / 田上キリスト教会 (大津キリスト福音教会伝道所) / 甲賀キリスト福音教会 / 水口キリスト福音教会
 甲西キリスト福音教会 / 雲井キリスト福音教会 / 米原キリスト福音教会 / 綾部キリスト福音教会 / 亀岡ベタニヤ教会
 京都キリスト福音教会 / 山科キリスト福音教会 / 深草キリスト福音教会 / 宇治キリストペンテコステ教会 / 木幡キリスト福音教会
 大阪キリスト福音教会 / 須磨自由キリスト教会 / 神戸フィラデルフィヤ教会 / 南さつまキリスト福音教会

以上の教会に1部以上を送っています。私たちの願いはすべての T P K F の信徒が一部ずつ持つことです。

ご意見、ご感想は次のメールアドレスをお願いします。tpkf.pentecost@gmail.com T P K F の公式ホームページ <http://www.tpkf.org/>

